

容量市場の在り方等に関する検討会（第28回）への意見

令和2年10月19日（月）

岡本 浩

容量市場の在り方等に関する検討会（第28回）資料について、次のとおり意見を提出いたします。

資料3「約定点において複数の同一価格の札が生じた場合の扱いについて」

・まず、提案内容に触れる前に一点申し上げます。前回の検討会でも発言させていただきましたが、上限価格での応札が集中しているということ自体を回避する策を考える必要があるのだと思います。その上で、今回ご提案いただいているような、応札が集中した場合の処理方法についてもルールとして定めておくということだと思っておりますので、ぜひ、検討をお願いします。

・その上で、資料3で提案いただいた同一価格の約定処理方法・発動指令電源の0円入札による同一価格の札の約定処理方法については、異論ありません。供給信頼度を損なうことなく、需要家負担を最小化する方法をご提案いただいたと理解しています。

・資料3の最後に示された需要曲線と供給曲線が交差しないケースの約定処理方法については、案2がふさわしいと考えます。容量市場の価格は、その時々需給バランスを表現し、電源の新陳代謝を促すシグナルとなるものです。案1のように入札価格の最高値を市場価格とすることは、存在しない供給力を仮定していることと同義であり、需給状況を表す市場価格と言えないのではないのでしょうか。

資料4「『FIT等の期待容量』に織込む容量の扱いについて」

・事務局提案に異論ありません。
・4年後の稼働が不確実な電源や休廃止予定の電源などを、期待容量として控除することにより、本来期待している供給信頼度が確保されない虞がありますので、そうした電源は期待容量に織り込まないことが望ましいと考えます。

以上